

小学校外国語活動・外国語科指導の 背景知識としての英米児童文学

羽澄 直子

English Children's Literature as a Background Knowledge for Teaching English at Elementary School

Naoko HAZUMI

1. 小学校外国語科のコア・カリキュラム

平成29(2017)年3月に公示された新学習指導要領により、小学校の外国語教育は大きく変容する。現行の学習指導要領では5年生、6年生が履修している数値評価のない「外国語活動」(年間35単位時間)が3年生、4年生開講へと時期が早められ、5年生、6年生には教科化された「外国語」(年間70単位時間)が新設される。現在の学習指導要領の「外国語活動」では活動内容が「聞くこと」「話すこと」にはほぼ限定されているが、新設の「外国語」には「読むこと」「書くこと」が学習内容に加わる。小学校の新学習指導要領の完全施行は平成32(2020)年度の子定である。

今回の学習指導要領改訂を踏まえ、教員を養成する大学の教職課程の改訂(教育職員免許法・同施行規則の改正)も行なわれる。現在の「教科に関する科目(大学レベルの学問的・専門的内容)」と「教職に関する科目(児童生徒への指導法等)」は、新たな教職課程では「教科及び教職に関する科目」に大括り化され、より質の高い教職課程を柔軟に編成できるよう、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶ科目設定が可能となる。この課程に「外国語」に関わる新たな科目「外国語の指導法」と「外国語に関する専門的事項」が追加される。これらの外国語関連科目は新設で前例もないため、授業の目標や学習内容の指針となるコア・カリキュラムが作られている。これは文部科学省に委託された事業として東京学芸大学が平成27(2015)年度から着手した「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」のなかで試案したコア・カリキュラムを基に作成されたもので、平成29年にはダイジェスト版が公表された。今後は各大学がコア・カリキュラムに沿った科目設定とシラバスを作成し、平成30(2018)年度の教職課程の再課程認定審査に備えることとなる。

小学校外国語のコア・カリキュラムは「外国語の指導法」と「外国語に関する専門的事項」の2つに分けられている。「外国語の指導法」のコア・カリキュラムの骨子は次のとおりである。

1. 授業実践に必要な知識・理解

- (1) 小学校外国語教育についての基本的な知識・理解
- (2) 子どもの第二言語習得についての知識とその活用法

2. 授業実践

- (1) 指導技術
- (2) 授業づくり

学習項目には、学習指導要領の理解、英語でのインタラクションの進め方、指導案作成、模擬

授業、ALT等とのチーム・ティーチングによる指導の在り方、ICT等の活用の仕方などが含まれる。

「外国語に関する専門的事項」のコア・カリキュラムは次の内容となる。

1. 授業実践に必要な英語力と知識

(1) 授業実践に必要な英語力

(2) 英語に関する背景的な知識

英語力については、外国語活動・外国語の授業を実践するのに必要な英語運用能力を、授業場面を意識しながら身につけるとされる。背景知識の学習項目には以下の4点が挙げられている。

- ①英語に関する基本的な知識
- ②第二言語習得に関する基本的な知識
- ③児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）
- ④異文化理解

①と②の英語と第二言語習得に関する知識については外国語の指導法のコア・カリキュラムと重なる部分もあり、背景知識であると共に語学学習の授業実践に直結する能力として外国語の授業を担当する教員に求められるものである。④の異文化理解については、新学習指導要領における外国語の目標「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」(137)、あるいは教材に関する留意事項「広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うことに役立つこと」(144)を反映したものである。

③の児童文学については、新学習指導要領には「児童文学」という文言の明記はないが、異文化理解と同様に教材に関する留意事項「英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、児童の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし」

(144)という部分と関わってくることから、教員に必要な知識としてコア・カリキュラムの項目に入れられたと推測される。

本論では、小学校の外国語の目標を達成させるために児童文学を授業でどのように活用することができるのか、また児童文学を活用するにあたり、教員にはどのような知識が求められるのかについて考察する。

2. コア・カリキュラムに基づくシラバス案

東京学芸大学が実施した前述の調査研究事業には、コア・カリキュラムに基づく12のシラバス案（「外国語の指導法」8例と「外国語に関する専門的事項」4例）が紹介されている（東京学芸大学 141-146）。児童文学を扱っているものは「外国語に関する専門的事項」の1例にとどまる。教員免許状取得を目指す学生の英語力の向上を中心とした15回の授業構成のうち、児童文学については2～3回の授業で以下のことを行なう内容が想定されている。

- 1) 背景について理解する。
- 2) 読み聞かせの具体的な方法を体験し、実際に教師としてやってみる。
- 3) 読み聞かせと関連する活動を体験し、実際に教師としてやってみる。

（東京学芸大学 146）

コア・カリキュラムでの「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」という記載が示すように、ここで想定される児童文学とは読書のための文学作品(小説、戯曲など)ではなく、英語の音声やリズム、韻などを児童が体感するための教材になりうる絵本や歌や詩である。つまり小学校で取り扱う「児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)」は主に言語習得のために利用されることが期待されているのである。このシラバス例では児童文学を扱う際に教員に主に求められるのは読み聞かせの技術であり、そのためには当然のことながら英語の発音、リズム、強弱のつけ方等についての知識や実践力を身につけてはならない。

昨今では絵本を活用した小学校の外国語活動法や教授法の研究が活発に進められている。さまざまな英語の絵本が紹介され、それらを使った授業の実践例も学会等で頻繁に発表されている。教材として取り上げられることが多いのはエリック・カールが絵を描いた絵本で、*The Very Hungry Caterpillar* (1969) や *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* (1967) などが定番のようだ。それぞれ『はらぺこあおむし』、『くまさんくまさんにみてるの?』という日本語訳で出版されており、イラストの色使いの鮮やかさと相まって日本の子どもたちにも馴染みのある絵本である。

絵本の活用による言語学習の方法は「絵を見て状況を把握し、全体の中の一部として意味ある英文を、聞いて理解する」というトップダウン方式であるという(外山他21)。これは言語学習用に作成された教材を使った「文字を覚え、単語を覚え、文を読む、という下から積み上げるボトムアップで、部分から全体へという学習」(外山他21)とは対照的で、絵本を活用するトップダウン方式は児童の「聞くこと」の態度と力の育成に効果的である。そしてこの活動によってインプットされたことが「話すこと」「読むこと」「書くこと」の養成にも生かされる。児童文学(絵本、子ども向けの歌や詩等)の読み聞かせを通して児童が学ぶことは音声面だけではない。

Brown Bear, Brown Bear, What Do You See? には、さまざまな色の名前と動物の名前が登場する。新学習指導要領では小学校の外国語活動および外国語の教科で600~700程度の語を身につけることになっており、この絵本を使った活動は児童の語彙を増やす助けとなる。本文はパターン化された短い文の繰り返しであるが、実は教員として注意すべき文法事項が含まれている。例えば木戸・荻川・Suzukiは*Brown Bear*での冠詞の使われ方を次のように説明する。

(1) 動物への呼びかけは固有名詞扱いであり冠詞は不要。色、動物名両方とも書き出しは大文字化される。

Brown Bear, Brown Bear, What do you see?

(2) 返答文では目的語に不定冠詞 a を伴った [色 + 動物名] がくる。

I see a red bird looking at me. (59)

冠詞の用法は新学習指導要領が小学校の外国語の学習内容に定める「文及び文構造」の知識技能には含まれていない。既存の絵本は学習指導要領に基づいて編纂されたテキストではないので、学習指導要領を逸脱する内容を含むことは当然ありうることだ。そもそも文法用語や用法についてはそれが学習指導要領の範疇であっても、あくまでも言語活動と効果的に関連付けて行なうようにとされており、文法指導に偏重することは新学習指導要領では避けるべき事項とされている。従って上記の*Brown Bear*の文法事項を教員が実際の授業で児童に説明し理解させることは求められていない。しかし表現の一つとして英文そのものを児童に親しませることは、新学習指導要領における「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本の中から識別する」(141)という「読むこと」の活動に連動する。さらに中学校や高等学校で

の外国語学習にもつながる意義あるインプットとなる。ただしこれらの文法用語や用法について、教える側の教員は的確に理解して使いこなせるようにしておくべきなのはいうまでもない。

英語の子ども向けの歌や詩を代表するものといえば、英語圏に古くから伝わる童謡の総称であるマザーグースであろう。東京学芸大学が試案したコア・カリキュラムでは、「英語運用に必要な基本的な知識等」の7項目のなかに当初「マザーグース・絵本・児童文学」が含まれていた(24)。その後マザーグースの名が消えて「子ども向けの歌や詩」に吸収された経緯は不明であるが、児童が英語の音声やリズム、韻を体感する素材としてのマザーグースの利用価値が否定されたわけではないだろうし、マザーグースが英語を教える教師として知っておくべき基礎知識であることに変わりはないと思われる。

マザーグースのそれぞれの詩の発生時期、内容は多岐に渡り、同じ詩にもさまざまなバージョンがある。内容によっては必ずしも子ども向きとは限らないが、おおむねシンプルな語と韻で構成された短い詩であるので、古くから英語圏の子どもたちに親しまれてきた。歌詞、メロディともに日本でよく知られているのは“Twinkle, twinkle, little star”で始まる「きらきら星」であろうか。

Twinkle, twinkle, little star,
How I wonder what you are!
Up above the world so high,
Like a diamond in the sky. (『マザーグースコレクション100』280)

1行目と2行目の最後の単語(star / are)と、3行目と4行目の最後の単語(high / sky)はそれぞれ韻を踏んでいる。児童は歌詞を口ずさむことで英語と日本語の音の違いを知ったり、英語の歌を歌う楽しさを体感したりすることができる。音声や表現に十分慣れれば、さらに他の詩を見聞きして韻を識別したり、自分で韻を踏む単語を選んだりするような発展的な活動もできるだろう。

今回東京学芸大学が提示したシラバス例では、児童文学は主に言語活動の教材として活用されているが、内容によっては異文化理解の教材として用いることも可能である。例えば前出の*Brown Bear*の最後には教師を見つめる9人の子どもたちの絵が描かれているが、性別や髪型、服装はいうまでもなく、髪の色、肌の色、目の色もそれぞれ異なっている。日本でも昨今は異なる文化背景を持つ子どもたちが学校のクラスのなかで増えているが、アメリカではさらに多様な子どもたちがクラスに集まっていることを、日本の児童はこの絵本のさし絵から知ることができる(木戸・蓑川・Suzuki 60)。このように絵本のたった1枚の絵からも社会や文化の多様性は学べるのである。教員を目指す学生がこのことに気付くようになれば、絵本や童話を活用する教材研究の可能性を大きく広げることができるだろう。

3. 英語を教える教師の知識としての児童文学

児童文学の知識は小学校の外国語の授業で直接活用するためだけのものではない。小学校教師としての技能を支える基礎知識として、児童文学には幅広く触れることが必要なのではないか。例えば前章で述べたようにマザーグースは英語を教える教師として知っておくべき項目であるが、その内容は多種多様で大人の風刺や戯れ唄、不気味で残酷な描写など小学校の教材としてはそぐなわないものもある。しかしそれらも含めてマザーグースは英語圏の歴史や風俗

などを反映するものとして社会に浸透しており、他の文学作品に取り入れられたり、映画や本のタイトル、新聞や雑誌の見出しにその一節が使われたりすることも珍しくない（藤野・夏目 i）。ある英文にマザーグースからの引用がなされていてもその事実に気がつかなければ、その文章の意味を的確に理解できないことがある。例えば何度か映画化もされたロバート・ペン・ウォーレンの小説*All the King's Men*（1946）はマザーグースの”Humpty Dumpty”の一節をタイトルに使用している。

Humpty Dumpty sat on the wall,
 Humpty Dumpty had a great fall,
 All the king's horses,
 And all the king's men,
 Couldn't put Humpty together again.（『マザーグースコレクション100』2）

王のすべての家来がいてもハンプティを元に戻すことはできなかったのである。*All the King's Men*が「ハンプティダンプティ」からの引用であることを知っていれば、小説のタイトルに潜在する意味はおのずと理解しやすくなる。

英語を教える者として知っておくとよい著名なイギリス児童文学の一つが、ルイス・キャロル著の*Alice's Adventures in Wonderland*（『不思議の国のアリス』1865）であろう。この言葉遊びやマザーグースなど伝承文学のパロディ、世相への皮肉を多く含む作品は、語彙や表現、内容の難易度が高く直接小学校の授業に取り入れるには相当な工夫が必要になり、生の教材としては不向きかもしれないが、英語表現の豊かさにあふれている。¹

子どもたちを描いた作品は、異なる文化における学校や教育の状況を知るのに役に立つ。例えばイギリス人作家J. K. ローリングの世界的なベストセラー*Harry Potter*シリーズ（1997－2007）は、ファンタジーの世界を描いたものではあるが、一方では現代のイギリスの家族観や学校文化、社会制度などが色濃く反映されている。また*Harry Potter*シリーズは当然のことながらイギリス英語で書かれており、アメリカ英語との語彙や語法の違いを見ることができる。

英語で書かれた絵本や歌、詩を含む児童文学は、原書で読むことが理想であろう。特に歌や詩は英語独自のリズムや韻律が作品の重要な要素であるし、言葉遊びを含むものは原文でなければ意味をなさない場合も多い。原書を読むことには教員の英語読解力を高める効果もある。しかしなかには英文を読むことに苦手意識があったり消極的になってしまったりする教員もいるだろう。そのような場合は無理に英語の原文にこだわらず、日本語訳を読めばよい。小学校の外国語の授業を行うにあたっての背景知識として児童文学を知るために読むのであれば、必ずしも英語の原書でなく日本語訳で読んでも目的は果たせると思われる。さらに広く異文化の知識を深めるためであれば、取り上げる児童文学を英語で書かれたものに限定する必要もない。ヨーロッパ、アジア、アフリカの伝承文学や現代文学も小学校の外国語教育に十分関連づけられる。

小学校の外国語教育の目標は単なる語学運用能力の向上ではないし、教師の役割は英語を流暢に話せる児童を育成することではない。外国語の言語活動を通して主体的にコミュニケーションを図る基礎となる資質や能力を養うことも主たる教育目標である。児童がコミュニケーションを図るにあたっては、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮することが求められる。小学校の外国語教育において児童文学は、言語活動にも異文化理解にも活用

される重要な専門項目なのである。

注

1. *Alice's Adventures in Wonderland*には「きらきら星」の替え歌が登場する。元歌と同じように1行目と2行目、3行目と4行目でそれぞれ韻を踏んでいる。

Twinkle, twinkle, little bat!

How I wonder what you're at!

Up above the world you fly,

Like a tea-tray in the sky. (97-98)

参考文献

- Carle, Eric. *The Very Hungry Caterpillar*. 1969. New York: Philomel Books, 1994. 『はらぺこあおむし』 もりひさし 訳 偕成社 2010年
- Carroll, Lewis. *Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking Glass*. 1865, 1872. Harmondsworth: Puffin Books, 1986.
- Martin, Bill Jr. and Eric Carle. *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* New York: Henry Holt and Company, 1967. 『くまさんくまさんなにみてるの?』 偕成社編集部訳 偕成社 1984年
- 木戸美幸・蓑川恵理子・Brooks Suzuki 『絵本で楽しく! 幼児と小学生のための英語—英語教育と日本語教育の視点—』 大阪教育図書 2017年
- 東京学芸大学 『文部科学省委託事業 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業 平成28年度報告書』 東京学芸大学 2017年
http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/28file/report28_03.pdf
- 外山節子他 『英語の絵本活用マニュアル』 コスモビア 2010年
- 藤田紀男・夏目康子 『マザーグースコレクション100』 ミネルヴァ書房 2004年
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社 2012年
- 一. 『小学校学習指導要領』 2017年3月 PDF版